

改憲

安倍首相「次の国会に自民案。早期に発議を」

いさめる声なく発言エスカレート



自民党総裁選

安倍首相と石破元幹事長の一騎打ちになった自民党総裁選挙（20日投開票）。同党の混迷と異常さが浮き彫りになっています。

異常



「首相への個人攻撃だ」と批判が上がっています。「正直、公正」は民主主義の基本。これを個人攻撃といふのは、「安倍首相がウン

石破氏の

スローガンは「正直、公正」。これに党内から

「正直」が争点とは

つきで、えこひいきする人間だ」と認識しているのと同じです。森友・加計問題。世論調査では7割が安倍首相の言い分を「信用できない」と答えています。なのに「安倍圧勝の流れ」と報じられる自民党。行き詰まりは深刻です。

大軍拡を正当化

防衛白書

平和の流れに逆行 北朝鮮を「これまでにない脅威」

2018年版防衛白書（8月28日発表）は、米朝首脳会談など北朝鮮の弾道ミサイルの脅威が減少するなか、それに逆行。北朝鮮の核・ミサイル開発を「わが国の安全に対するこれまでにない重大かつ差し迫った脅威」だと指摘。大軍拡を正当化しています。これに沿った形で防衛省の来年度予算案概要要求は、軍事費総額が5兆2986億円で過去最大となり、今年度の当初予算比2・1%増の高い伸び幅です。

経産省が内部文書

「発言記録必要なし」

経済産業省が政治家ら省内外の人物と折衝した時に作る公文書について、「議事録のように、個別の発言まで記録する必要はない」と内部文書で指示していたことがわかりました。森友・加計問題から最悪の「教訓」を引き出したものです。

森友・加計問題では折衝記録が疑惑の発火点になりました。加計問題では「総理の

森友・加計から最悪の教訓

「意向」「官邸の最高レベルが言っている」などの政治家・官僚の発言が記録された文部科学省の内部文書で、官邸の関与が焦点になりました。個別の発言を記録しなければ、隠へいも、廃棄も、虚偽答弁も必要なくなります。一層悪質な隠へい体制をつくるものです。国民主権は成り立たなくなります。

市民+野党の共闘で安倍政権を倒そう

日本共産党